

内閣総理大臣
表彰

経済産業省推薦

一般社団法人 日本玩具協会

(東京都墨田区)

【概要】

➤ 一般社団法人日本玩具協会は、玩具の製造・流通業者からなる業界団体で、1967年の設立以降、「優良な玩具の提供を通して、子供たちの夢と豊かな情操を育むこと」及び「新しい生活文化を創造すること」を理念として掲げ、玩具安全や見本市開催などの各種事業を実施している。

同協会は、一人でも多くの子供たちに楽しいおもちゃを届けたいという願いの下、玩具業界の社会還元の一環として、1990年3月に「共遊玩具」の開発推進と普及の活動を開始した。

「共遊玩具」は、目や耳に障害がある子供たちも、健常児と同様に、楽しく遊べるよう「配慮」が施されたおもちゃであり、一般市場向けに造られ販売されているものである。

【功績・功労】

➤ 共遊玩具の認定規準の策定及び認定プロセスの構築

同協会では、共遊玩具として認定するためのガイドラインとなる「共遊玩具ハンドブック」を専門家の協力を得て作成し、玩具メーカーから申請のあったおもちゃについて、視覚や聴覚に障害のある子供たちも遊ぶことができる配慮が施され、楽しく遊べるかどうかについて、関係団体の参加の下、モニター審査を実施し、審査に合格したおもちゃを「共遊玩具」として認定している(活動開始からの30年の間に4,216点を認定)。



1 スイッチ類は触覚にもわかりやすく

*1. スイッチの「ON側」に凸点を入れる。(φ2×0.8、さびつてわかりやすければ多少の増減可能)

① スライドスイッチ
② シーソースイッチ
③ 回転スイッチ
④ 3段階スイッチ

凸の形状

形状については、φ2×0.8を基本とするが、範囲を設ける。
(JIS S 0011 (凸点のJIS規格)による)

*2. 電話玩具等の「10キー」の「5」に凸点を入れる。(φ2×0.8、さびつてわかりやすければ多少の増減可能)

① ② ③
④ ⑤ ⑥
⑦ ⑧ ⑨

電話の「5」に凸点

「共遊玩具ハンドブック」内のガイドラインの一例

➤ 必要とする方々への共遊玩具情報の提供

認定した共遊玩具を「共遊玩具カタログ」として取りまとめ、関係教育機関、視覚障害特別支援学校(盲学校)、障害児入所施設(盲児施設)、点字図書館、聴覚障害特別支援学校(ろう学校)などに幅広く郵送・配布し、必要とする方々に共遊玩具の情報が広く届くよう取り組んでいる。

➤ 共遊玩具の開発推進及び普及啓発

業界内で「共遊玩具」について深い理解と広い支持を得るため、同協会主催の新入社員研修で共遊玩具の講習を継続して行い、また、定期的に「共遊玩具セミナー」を実施している。加えて、同協会は、共遊玩具の啓発ビデオ作成、玩具見本市(東京おもちゃショー、クリスマスおもちゃ見本市)での共遊玩具展示を通じて、業界関係者等に対して「共遊玩具」の啓発を継続して実施している。

また、同協会は、「日本おもちゃ大賞」に、その創設当初から「共遊玩具部門」を設け、優れた共遊玩具とその開発担当者を大きく顕彰することで、玩具メーカーに共遊玩具の開発を強く促している。さらに、福祉機器の展示会「国際福祉機器展」において共遊玩具の展示ブースを設け、福祉事業関係者や福祉専門学校の学生などに向け、共遊玩具への認識と理解を深めるよう取り組んでいる。このように、同協会は、30年にわたり、主体的に共遊玩具の開発推進と普及啓発に努めてきた。

「共遊玩具」に認定されたおもちゃは、そのパッケージに、



盲導犬マーク・うさぎマーク



TM & © Othello, Co. and MegaHouse

「おもちゃカタログ」掲載
共遊玩具の一例

盤とオセロ石が一体となっていて、石を回転することにより白石と黒石が盤面に現れる。黒石の表面に凹凸があり、目の不自由な方も触って確認できる。



©やなせたかし/ブルーベール監・TMS・NTV

(日本おもちゃ大賞2019共遊玩具部門大賞受賞)
待ち受け状態を光に加え音でも表示。見えない場所からの呼びかけに応じて居場所を知らせてくれる。タッチのためのエリアが広く、音声認識能力も優れている。

